

## 環太平洋大学通信教育課程「表現 C（身体表現）」 （2年生以上）授業実践報告

川瀬, 雅  
環太平洋大学次世代教育学部こども発達学科 : 講師

<https://hdl.handle.net/2324/4798368>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.40-40, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International



## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

〈授業の目的〉本科目の目的は、幼稚園教育要領における領域〈表現〉のうち身体を用いた表現の方法やそれが担う役割について学ぶと同時に、新たな表現方法を獲得し、受講者自身の表現力を向上させることである。なお、本科目は幼稚園教諭一種免許状取得に関して必修となっている。

〈実施方法〉授業実施については、既に通学課程で運用方法が議論され、実際に使用されていた Google classroom を用いた。初回授業開始までにストリームを利用して、実技を伴う内容であること、ビデオを繋いだ状態で授業を行うこと、確保してほしい最低限のスペース、カメラの位置など具体的な授業方法と注意点を掲示した。

〈授業内容〉科目の目的を果たす上で実技は避けられないが、後に示す懸念事項もあったため、例年よりも理論の解説や方法論に時間を費やすこととした。具体的には、領域〈表現〉と身体表現の内容解説及び現状の課題、リズムダンスの創作方法と実践、身近な物や出来事の表現と鑑賞、幼小連携とそれぞれの実践方法、表現における2面性の理解等を扱った。

〈懸念事項〉1)実技科目では動きを確認するためビデオを繋ぐ時間が多くなり、通信容量が増える。2)細かな動きや変化が多く激しい動きは画面がフリーズしてしまう。3)スクーリングでは休憩時間等に受講者同士の情報交換が行われていたが、オンラインでは教員1:受講者1のやり取りになりやすく、受講者間のやりとりが減少する。

〈懸念事項に対する解決方法〉1)授業開始前に事前レポートや創作課題を与えたりして、ビデオを繋がない時間を設けた。しかしただ単に課題を与えるだけでは発展しないため、①ビデオを繋いでいる間に課題へ繋がる話題を提供する。②オフラインで課題を作成する。③再度ビデオを繋ぎ、受講者が提出したレポートから1部抜粋して紹介したり動画を共有したりして、受講者からそれをさらに解説してもらい、他の受講者から意見や感想を求め議論をする形式を作った。これにより、懸念事項1)と同時に3)も解決した。2)例年はリズム

ダンスの実技試験を行ったが、これを無くし、リズムダンスのような早い動きを行う時間を極力減らした。代替内容として、身の回りにあるものや出来事を再現し、それをデフォルメしてダンスにしていける作業を実技の中心にして、音楽なしで身体のみで表現することを重視した。これにより画面がフリーズすることは数回のみだった。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

受講生からのコメントをまとめると、実技の授業をオンラインで行うという不安があったが、実技だけではなくその実施基盤となる概念的なものについても触れることができ満足しているようだった。授業担当者としての立場から振り返ってもこの点についてはオンライン授業の功績であることに同意する。実技の授業では提示される実技課題を仕上げることに多くのエフォートを割いていたが、今回は理論について多く触れることで受講生が現在抱えるあるいは今後立ち向かうであろう開発的課題の解決の手立てとなるような考え方を授業の双方向的やりとりにて構築することができた。今後も通信教育課程に在籍する学生のニーズに応えるため、このケースを始発点としたい。